

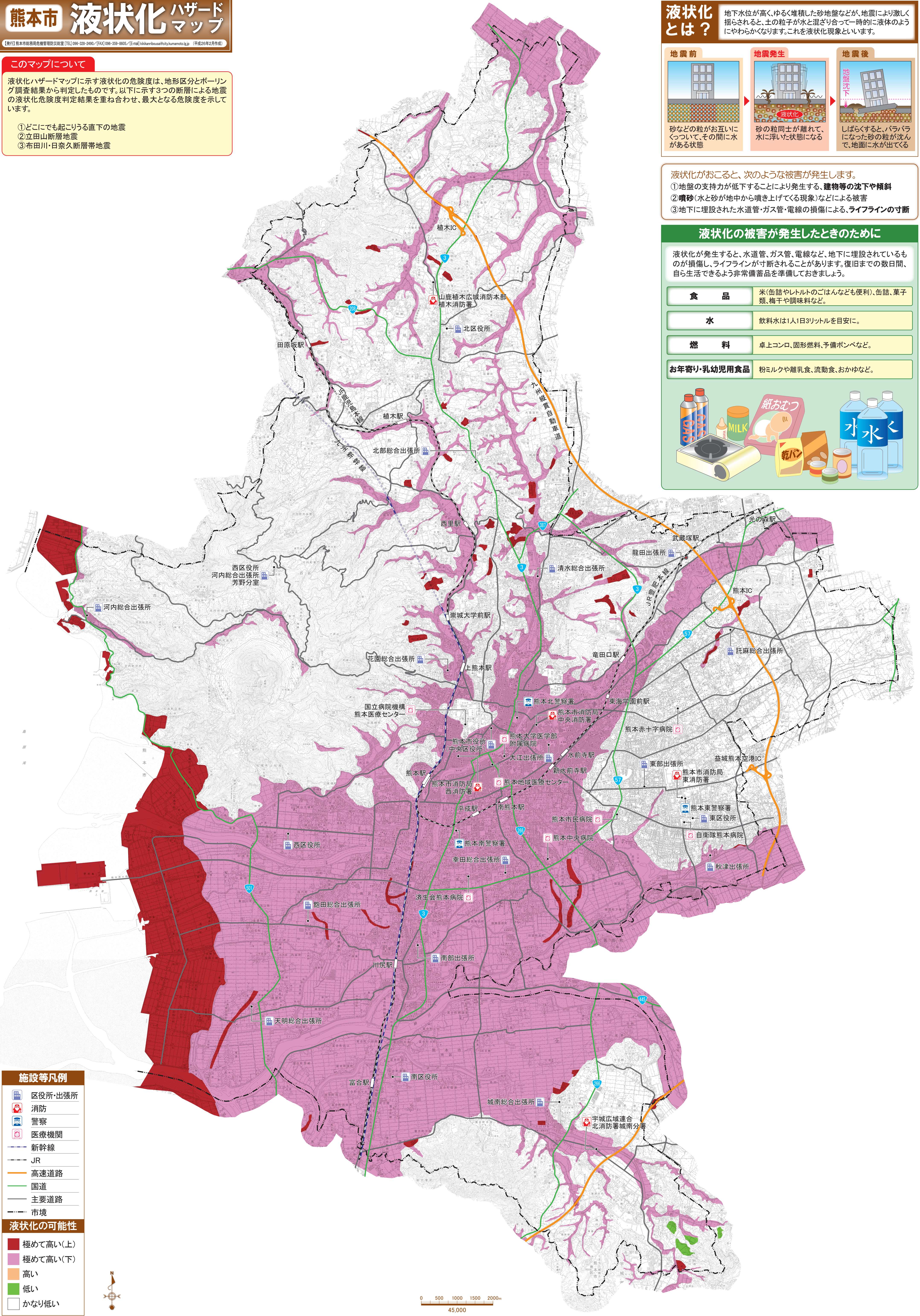
このマップについて

液状化ハザードマップに示す液状化の危険度は、地形区分とボーリング調査結果から判定したものです。以下に示す3つの断層による地震の液状化危険度判定結果を重ね合わせ、最大となる危険度を示しています。

①どこにでも起こりうる直下の地震

②立田山断層地震

③布田川・日奈久断層帯地震



液状化とは？

地下水位が高く、ゆるく堆積した砂地盤などが、地震により激しく揺らされると、土の粒子が水と混ざり合って一時的に液体のようにならなくなります。これを液状化現象といいます。

地震前

砂などの粒がお互いにくっついて、その間に水がある状態

地震発生

砂の粒同士が離れて、水に浮いた状態になる

地震後

しばらくすると、バラバラになった砂の粒が沈んで、地面に水が出てくる

- 液状化がおこると、次のような被害が発生します。
- ①地盤の支持力が低下することにより発生する、建物等の沈下や傾斜

②噴砂(水と砂が地中から噴き上げてくる現象)などによる被害

③地下に埋設された水道管・ガス管・電線の損傷による、ライフラインの寸断

液状化の被害が発生したときのために

液状化が発生すると、水道管、ガス管、電線など、地下に埋設されているものが損傷し、ライフラインが寸断されることがあります。復旧までの数日間、自ら生活できるよう非常備蓄品を準備しておきましょう。

食 品	米(缶詰やレトルトのごはんなども便利)、缶詰、菓子類、梅干や調味料など。
水	飲料水は1人1日3リットルを目安に。
燃 料	卓上コンロ、固形燃料、予備ボンベなど。
お年寄り・乳幼児用食品	粉ミルクや離乳食、流動食、おかゆなど。

施設等凡例

区役所・出張所

消防

警察

医療機関

新幹線

JR

高速道路

国道

主要道路

市境

液状化の可能性

極めて高い(上)

極めて高い(下)

高い

低い

かなり低い

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情復 第391号)